

資料－4

記載例集

1 施 工 計 画 書 記 載 例

(様式-5)

(配管工事の記載例)

工事打合簿

発議者	<input type="checkbox"/> 発注者 <input checked="" type="checkbox"/> 受注者	発議年月日	令和〇年〇月〇日
発議事項	<input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 報告 <input checked="" type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 届出 <input type="checkbox"/> その他 ()		
契約番号	〇〇〇-KK-〇〇	受注者名	(株)〇〇設備工業
工事名	〇〇〇一丁目(〇〇〇小東側)地区配水管更新工事その1		
(内容) 令和〇年〇月〇日に契約しました上記の工事の施工計画書を提出します。			
添付図 葉、その他添付図書			
処理	発注者	上記について <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 受理 します。 <input type="checkbox"/> その他 []	
	受注者	上記について <input type="checkbox"/> 了解 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> 届出 します。 <input type="checkbox"/> その他 []	
		令和 年 月 日	令和 年 月 日

課長	主任 監督員	監督員

現場 代理人	主任 (監理) 技術者

(A4版)

令和 年度

〇〇〇-KK-〇〇

〇〇〇一丁目（〇〇〇小東側）地区配水管更新工事その1

施 工 計 画 書

目 次

1	工事概要	P-〇〇
2	案内図及び全体計画図	P-〇〇
3	実施工程表	P-〇〇
4	施工方法	P-〇〇
5	出来形管理計画	P-〇〇
6	品質管理計画	P-〇〇
7	配管材料一覧表	P-〇〇
8	主要資材一覧表	P-〇〇
9	主要機械一覧表	P-〇〇
10	現場組織表	P-〇〇
11	安全衛生管理	P-〇〇
12	安全衛生管理組織表	P-〇〇
13	緊急時連絡表	P-〇〇
14	安全施設（仮設備等）	P-〇〇
15	資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー	P-〇〇
16	再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書	P-〇〇

(様式-2の2)

1 工事概要

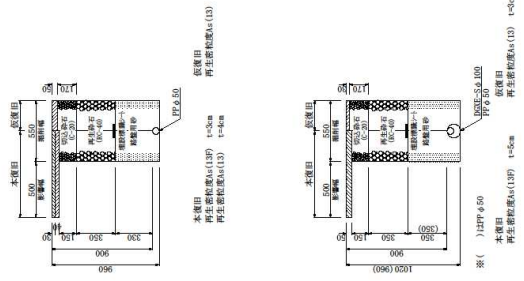
(1) 工事概要

工 事 名	〇〇〇一丁目（〇〇〇小東側）地区配水管更新工事その1
工 事 場 所	青森市〇〇〇一丁目 地内
工 期	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
請 負 金 額	¥33,000,000 （うち消費税 ¥3,000,000）
発 注 者	青森市公営企業管理者企業局長
受 注 者	株式会社〇〇〇設備工業 TEL 017-111-1111 現場代理人 〇〇 〇〇

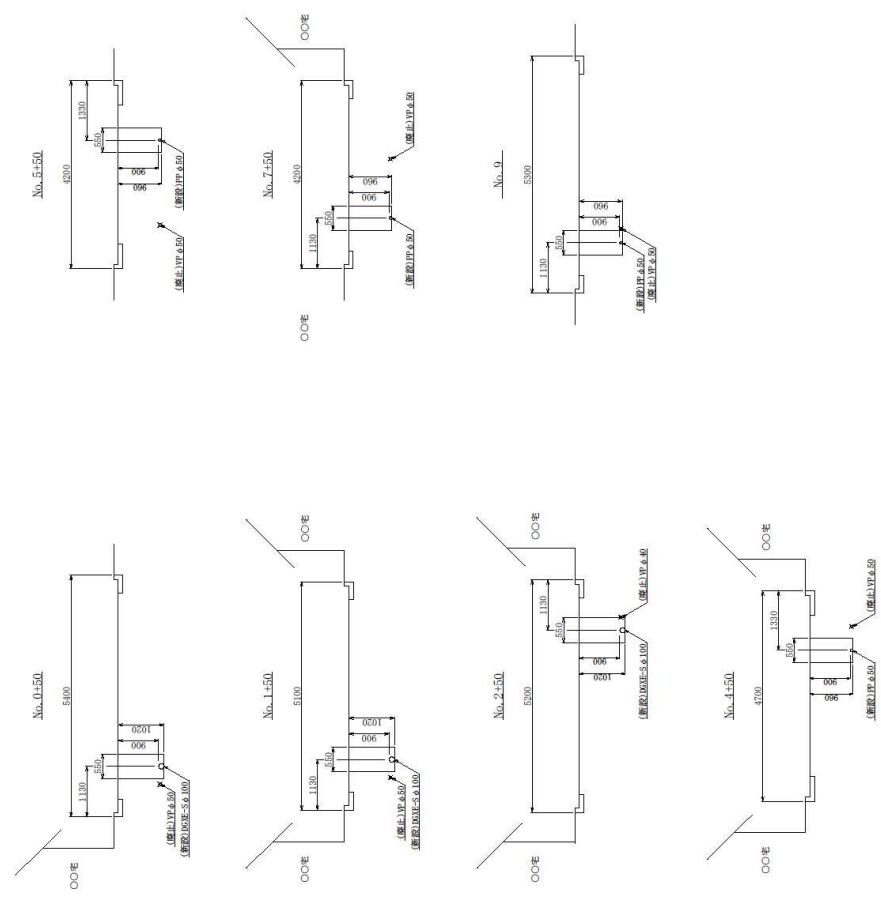
(2) 主要工事内容

工 種	形状・寸法	単位	数量	摘要	
布 設	配水管	DGXE φ 100	m	300	
	〃	DKE φ 100	〃	5	
	〃	PP φ 50	〃	380	
設 置	仕切弁	GX 形ツガ受挿 φ 100 10k	基	1	
	〃	SS 弁 φ 100 7.5k	〃	1	
	〃	SS 弁 (VS ツガ) φ 50 7.5k	〃	5	排水用 1 基

道路復旧図 S=1:20



横断面図 S=1:50



工事名	〇〇丁目(〇〇小集積)地区 配水管更新工事の1		
図面内容	横断面図・道路復旧図		
図面番号	2-2	縮尺	図示
製表	チームリーダー	主任製図員	製図員
青森市企業局水道部			

4 施工方法

本工事の施工にあたっては、青森市企業局水道部「上水道配管工事標準仕様書」に準拠し、施工いたします。

- (1) 準備工
- (2) 掘削工
- (3) 土留工
- (4) 残土処理工
- (5) 管布設工
- (6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工
- (7) 舗装工
- (8) 写真管理

(1) 準備工

① 現場事務所及び材料置場等

現場事務所及び材料置場等は、付近住民に迷惑のかからない場所とし、常に整理整頓をします。また、現場事務所及び資材置き場等には**会社名・連絡先・責任者名等を明記した看板**を設置し、周囲にバリケード等を回して、敷地内に入れないように処置します。

(別紙、現場事務所及び材料置場等案内図参照)

② 着工前写真

比較となるよう、試掘調査前に No. 点にポールを立てずに、同一視点から着工前の全景を入れ全路線を撮影します。その際、全景が見えづらい時にはスパンを短くして撮影します。

③ 現場付近居住者への説明等

施工前に監督員と協議のうえ、現場（資材置場等含む）付近居住者に対して工事内容についての具体的な説明と広報紙の配付を行い、工事について十分協力が得られるように努めます。特に、給水管連絡工又は給水管取替工を施工する対象者に対しては、給水管の切替や車の出入り等の詳細な説明を個別に行います。

工事の施工上やむを得ず通行止めにするときは、現場付近居住者に対して具体的な広報と説明を行い、必要に応じて、迂回看板等の設置をします。

工事の準備及び施工に際し、許可なく現場（資材置場等含む）付近居住者の敷地内及び公道に駐車したり、工所用機械器具及び材料等を置きません。

④ 試掘調査・法線立会

施工に先立って、試掘調査を行い、地下埋設物やその他の障害物を確認し、試掘調査結果報告書にまとめ、速やかに2部（1部返却用）監督員に提出します。その後に、施工順序、施工方法、使用機械、出来形管理方法等について、監督員と十分打合せのうえ、地下埋設物やその他の障害物を考慮し、監督員と立会いにより法線を決定します。

⑤ 関係機関との協議

諸機関との連絡を密にし、地上施設物及び地下埋設物が施工の支障になった場合や管理者から指示があった場合は、その内容について速やかに監督員に報告し、指示を受けます。

主要関係機関

警察署・NTT 東日本-東北・東北電力・青森ガス
給排水課(管渠維持チーム)・道路維持課(施設管理チーム)

(別紙) 現場事務所及び材料置場等 案内図



拡大図



青森市大字〇〇字〇〇1-1
 〇〇 〇〇 所有地

(注) 土地の形状がわかるようにすること。

(2) 掘削工

- ① あらかじめ保安施設、土留、排水、既設管補修用資材、覆工、残土処理方法、その他の必要な準備を整えたい施工します。
- ② アスファルト舗装の取壊しに当たっては、舗装切断機等を使用して切口を直線にし、粗雑にならないようにします。
- ③ 掘削底面の仕上げは、不陸を均して平坦に仕上げ、埋設管の全長が均等にその地盤上に定着するように施工します。また、底面が硬い岩盤及び玉石等を含む地盤、コンクリート塊等固い突起物が出てきたときは、管底より 10 cm 以上は取り除き、砂等で置き換えします。
- ④ 継手部の会所掘りを施す場合は、ボルト締付け不良等を防ぐため、接合作業しやすいように十分な大きさを確保し、えぐり掘りをしないようにします。
- ⑤ 機械掘削をする場合は、施工区域全般にわたる地上及び地下の施設物に十分注意し、施工します。
- ⑥ 工事区域内は、排水を十分行なえるような水替施設を設け、水を滞留させないように注意し、沈砂柵は必ず設置し、土砂を流出させないようにします。

(3) 土留工

- ① 掘削深さが 1.5m を超える場合、必ず土留を設置し、1.5m 以内であっても自立性の乏しい土質であれば土留めを設置します。
- ② 土留めの存置期間中は、部材の変形、緊結部のゆるみ等の早期発見に留意して、常時点検を行います。また、存置期間が長期間の場合は、変位等を観測し記録します。
- ③ 土留板は、掘削面と密着するように設置し、隙間が生じた場合は良質の土砂、その他適切な材料を用いて裏込めを行います。
- ④ 土留板引抜き跡が、沈下等、地盤の変状を生じないように空洞を砂等で充填します。
- ⑤ 土留材に使用する材料は、十分土圧に耐える構造及び材質のものを使用します。
- ⑥ 土留板打込みに際しては、適切な深さまで素掘りしたのち、通りよく建込み、垂直に打ち込みます。
- ⑦ 腹起しは、管の吊り下ろしに支障がないように長尺物を使用します。また、切梁は堅固に据え付けます。

(4) 残土処理工

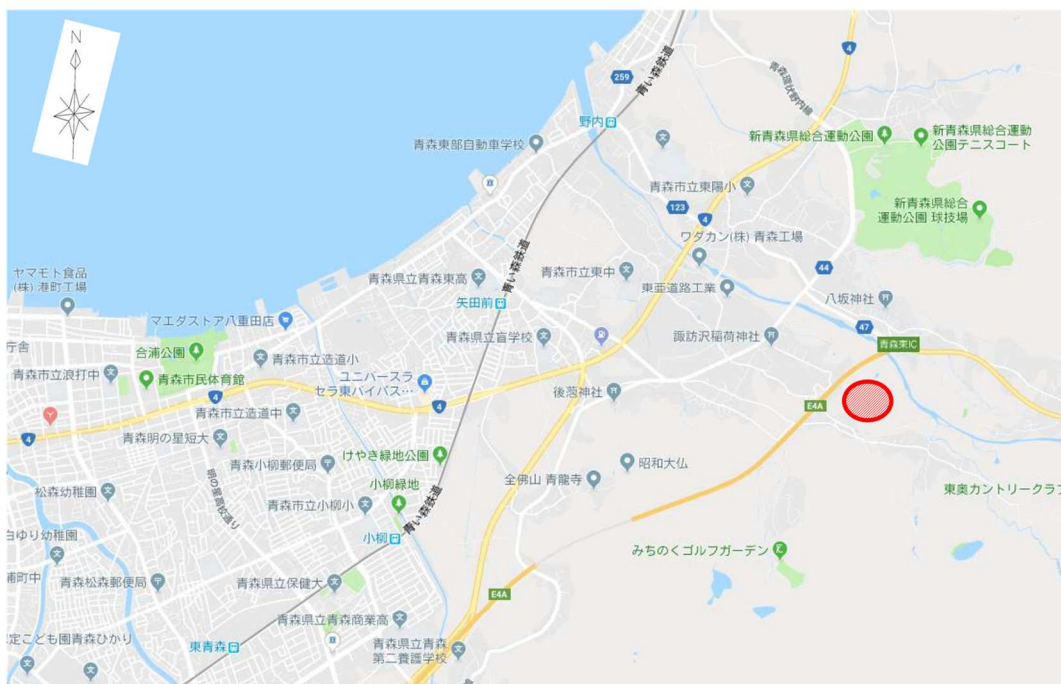
- ① 残土は、すべて当社の責任において処分し、処分先について処分前、処分後に監督員の指示により立会い（確認を含む。）を受けます。

（別紙、残土処分地案内図参照）

- ② 運搬に当たっては、荷台にシートを被せるなど、残土をまき散らさないように注意し、沿線住民に迷惑がかからないように努めます。また、ダンプトラックに付着した土砂により道路が汚れた場合は、早急に清掃します。
- ③ アスファルト殻は処分可能な中間処理施設に搬入し、適正に処分します。

（別紙、As 殻処理施設案内図参照）

(別紙) 残土処分地 案内図



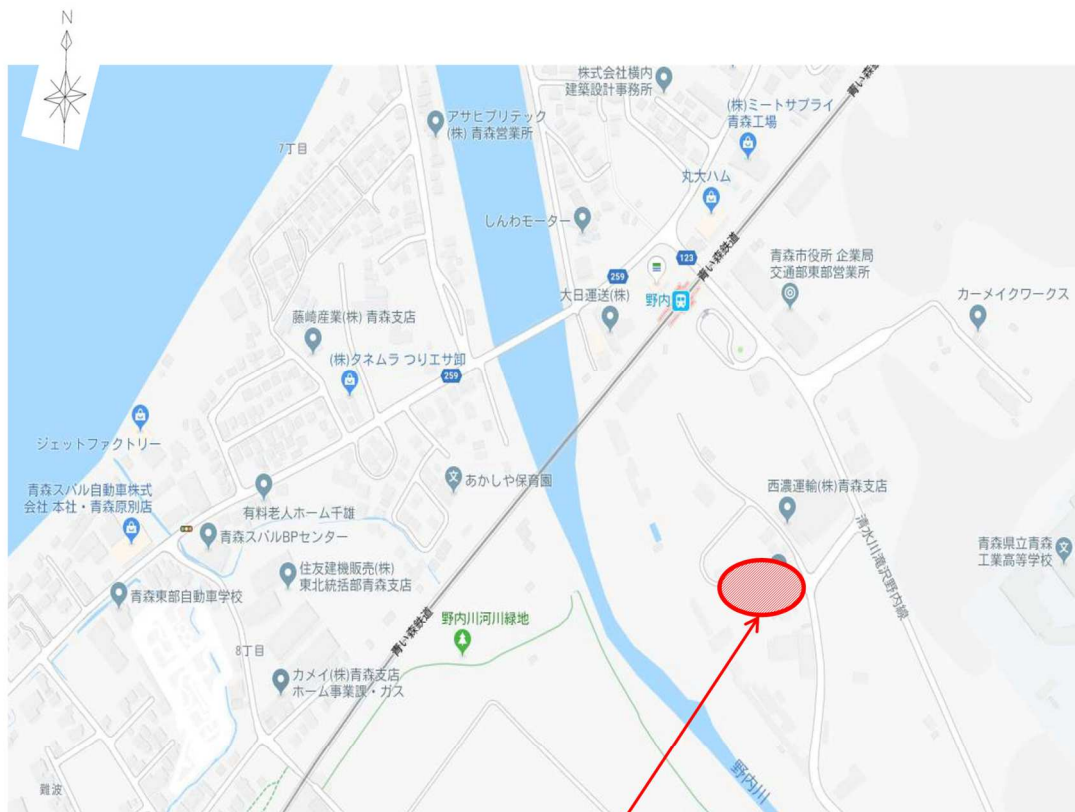
拡大図



青森市大字〇〇字〇〇1-1
〇〇〇(株)所有 残土捨場

(注) 土地の形状がわかるようにすること。

(別紙) As 殻処理施設 案内図



青森市大字〇〇字〇〇123
〇〇建設(株)

(5) 管布設工

(5)-1 配管技士

- ① 配管技士は、自社が恒常的に雇用する者（3ヵ月以上雇用する者）を配置します。
- ② 配管技士は、公益社団法人日本水道協会の配水管技能登録者（※耐震継手）を配置します。

（注）必要資格は工事内容によって異なる。（一般継手、耐震継手、大口径）

- ③ 配管作業中は、配管技士であることを識別できるものを着用します。

(5)-2 管の据付け

- ① 管の据付けに先立ち、管体を点検し亀裂その他の欠陥のないことを確認します。
- ② 管の吊り下ろしに当たって、土留用切梁を一時取り外す必要がある場合、適切な補強を施し、安全に行います。また、溝内の吊り下ろし場所に作業員を立ち入らせません。
- ③ ダクタイル鋳鉄管の布設は、原則として低所から高所に受口を上に向け配管します。また、角度調整が必要なときは、管種ごとに定められている許容曲げ角度や最小曲げ半径を遵守し、無理な曲げ配管をしません。
- ④ 管の据付けに当たっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定する。また、ダクタイル鋳鉄管についてはメーカーマークの中心部を上に向けて据え付けます。
- ⑤ 管と既設地下埋設物との離れは、30 cm以上を保つようにします。ただし、所定の間隔が保持できないときは、速やかに監督員に報告し、その指示に従います。
- ⑥ 掘削溝内に排水設備を設け、管内に土砂、汚水等が流入しないようにします。
- ⑦ 一日の布設作業完了後は、管内に布、工具類を置き忘れないように注意し、管内に土砂、汚水等が流入しないようにキャップ、栓等で管端部をふさぎます。
- ⑧ ポリエチレン管の布設の場合は、管明示テープを貼り付けポリエチレン管用浸透防止スリーブで被覆した後、管頂部にロケーティングワイヤーを設置します。
- ⑨ 金属継手による接合は、継手の袋ナット及びリングを管にセットして、プラスチックハンマなどを用いてインコアを管端に挿入した後に、パイプレンチ及びトルクレンチで袋ナットを締付けします。

(5)-3 管の切断

- ① 管の切断は管軸に対して直角に行います。
- ② 鋳鉄管の切管の有効長最小長さは、概ね 1m とし、管種・口径毎に参考として定められている有効長の最小長さを下回らないようにし、原則 10 cm単位で切断を行い、せめ配管等 1cm単位で切断しなければならない場合は、完成図面の表示は 1cm単位

で表示します。ただし、それが困難な場合は監督員と協議のうえ施工します。

- ③ 鋳鉄管の切断は、専用の切断機で行い、切断した端面はヤスリ等で軽く面取りを行います。鋳鉄管の切断面は、専用の補修用塗料（ダクタイト鉄管切管鉄部用塗料）で補修します。
- ④ 管の切断の際に、内面エポキシ樹脂粉体塗装された鋳鉄管内部の塗膜を損傷した場合は、専用の補修用塗料（ダクタイト鉄管内面補修用塗料）を用いて補修します。
- ⑤ ポリエチレン管の切断は、白色油性ペン等で標線を入れ、ポリエチレン管用のパイプカッタを用いて、管軸に対して管端が直角になるように切断します。

5)-4 管の接合

- ① GX形継手の接合方法については、一般社団法人 日本ダクタイト鉄管協会「GX形ダクタイト鉄管接合要領書」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。

押しボルトの締付けトルク

呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分
75～400	M20	100	○

GX形継輪 両挿し口端の間隔（せめ配管の場合）

呼び径	y1 (mm)	使用区分
75	190	
100	200	○
150	240	
200・250	250	
300～450	300	

メタルタッチの接合方法については、すきまゲージを用いて隙間がないことを確認します。

- ② K形継手の接合方法については、一般社団法人 日本ダクタイト鉄管協会「K形ダクタイト鉄管接合要領書」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。

標準締め付けトルク

呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分
75	M16	60	
100～600	M20	100	○
700・800	M24	140	

900～2600	M30	200	
----------	-----	-----	--

- ③ ポリエチレン管継手の接合方法については、日本ポリエチレンパイプシステム協会「水道用ポリエチレン二層管（1、2種管）施工ハンドブック」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。

ナットの標準締付けトルク

呼び径	13	20	25	30	40	50
標準締付けトルク (N・m)	40.0	60.0	80.0	110.0	130.0	150.0
使用区分		○	○			○

- ④ フランジ継手の接合方法については、一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会「フランジ形ダクタイル鉄管接合要領書」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。
- (1) フランジ継手 (RF-RF) の場合

標準締付けトルク

呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分
50～200	M16	60	○
250・300	M20	90	
350・400	M22	120	
450～600	M24	180	

- (2) フランジ継手 (RF-GF メタルタッチ) の場合

接合状態の確認は、すきまゲージにて円周4ヶ所測定し、1mm厚のすきまゲージが入らないことを確認し、チェックシートへ記入します。

(5)-5 仕切弁設置工

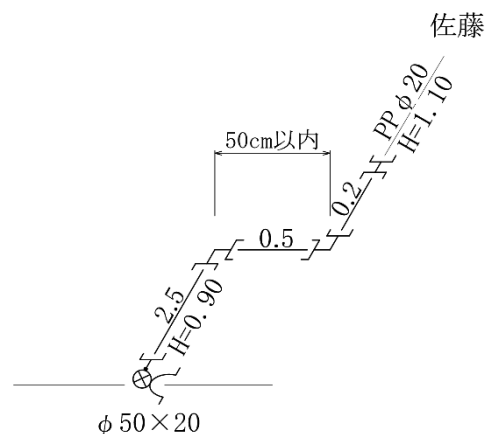
- ① 設置に当たっては、維持管理、操作等に支障のないようにします。
- ② 仕切弁の設置場所は監督員と協議のうえ選定します。
- ③ 仕切弁の据付けに当たっては、正確に芯出しを行い、開閉軸の位置を考慮して方向を定め垂直又は水平に設置し、堅固に据え付けます。
- ④ 仕切弁は、設置前に弁体の損傷のないことを確認するとともに、弁の開閉方向を点検し、開度「閉」の状態を設置します。なお、通水後は、全開から半回転程度、閉方向に戻した状態にしておきます。
- ⑤ 埋設深が深い仕切弁や割T字管に付属する仕切弁、V-KINGソフト仕切弁を設置した場合は、鞘管を用いて配水管を防護します。
- ⑥ 弁筐蓋の裏に仕切弁の回転数、口径、さらに、消火栓用仕切弁にはⓉ、排水用仕

切弁には⑩の刻印を表示した銘板を取り付けます。

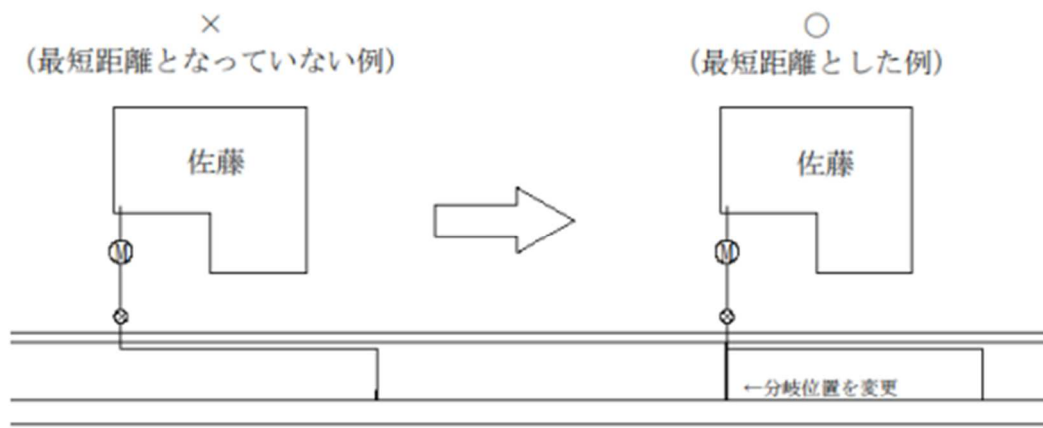
- ⑦ 弁筐は堅固に取付け、かつ、路面に対し不陸のないようにします。
- ⑧ 弁筐の据付けは、沈下、傾斜及び開閉軸の偏心を生じないように、座台の設置面を十分に締め固めます。また、仕切弁のキャップ部分が弁筐の中心になるように設置します。

(5)-6 給水管連絡工

- ① 給水装置工事主任技術者を現場に配置し、給水装置工事に従事する者の技術上の指導監督をします。
- ② 分岐位置は、他の給水装置や配水管の受口から 30 cm以上離し、給水接続箇所からなるべく離さないよう水平距離で 50 cm以内にし、50cmを超える場合は監督員に連絡し指示を受けます。



- ③ 接続する給水管が家屋の間口以外から分岐している場合は、宅地内止水栓や給水接続箇所から最短距離となるように分岐位置を変更し、分岐位置については監督員に連絡し指示を受けます。



- ④ 給水管が輻輳する場合には、一定の離隔を保ち順序よく整然と配管します。
- ⑤ 管穿孔作業は、配水管のサドル取付部の管表面を、ウエスなどで十分に清掃しサドルバンドにボルトを通し、ナットを均等に締め付けてから作業します。
- ⑥ 管穿孔前に閉栓キャップを外し、分水栓が完全に開いているのを確認してから穿孔します。
- ⑦ 管穿孔作業中は、排水コックを開いて切り粉を十分に排出します。また、穿孔完了後、既設給水管との接続前にも十分に水吐きしてから接続します。
- ⑧ 給水管を切替えるときは、原則、取水位置より遠い給水管から切替えるものとし、定期的に残留塩素濃度を確認しながら作業します。
- ⑨ 配水管のポリエチレンスリーブ又は浸透防止スリーブを切断した場合には、分止水栓用防食フィルムと重ね合うように被覆し直し確実に密着させます。

(5)-7 既設管との連絡

- ① 既設管との連絡工事を行う場合は、その数日前までに断水日時及び工事日程について監督員と十分打合せを行い、その指示に従います。また、必要に応じて作業実施計画書を提出します。
- ② 事前に試掘調査を行い、既設管の位置、管種、口径及び他の地下埋設物を確認します。また、監督員の指示により、あらかじめ、操作する仕切弁、消火栓、排水弁等の機能調査を行い、工事の際に支障をきたさないようにします。
- ③ 連絡工事は、時間的に制約されるので、円滑な作業ができるように十分な人数の作業員と経験豊富な配管技士を配置させるとともに、配管資材の確認や排水ポンプその他の機材を準備して、迅速、確実に施工します。
- ④ 連絡箇所は、水圧検査の区間外となるため、その配管接合には万全を期し、後日漏水の原因にならないように十分留意します。

- ⑤ 既設管と連絡するときは、新設管、既設管とも十分清掃し、ウエスや作業用器具等を置き忘れないように点検し、支障がないことを確認したうえで接続します。
- ⑥ 連絡工事及び管洗浄作業に伴う仕切弁、消火栓等の操作は、監督員の指示に従います。
- ⑦ 止水確認用のサドル付分水栓の位置は、監督員と協議し、既設管と連絡完了後、空気抜きに使用できる位置に設置します。

(5)-8 不断水連絡工

- ① 割T字管設置部の管面の清掃及び資材点検をし、取付ボルトは片締めにならないように均等に締め付けます。
- ② 監督員立会いのもとで水圧検査（0.7MPa 5分間）を実施し取付け部の漏水がないことを確認します。
- ③ 弁体が全開になっていることを必ず確認してから穿孔作業をします。
- ④ SUS ブッシュ挿入時は、挿入機に正しくセットされているか確認し作業します。

(5)-9 管凍結工

- ① 凍結用容器を管に取付け、パテを塗り込むときは、水密性が必要であるので、施工は丁寧に行い、据付けの際には、下部をジャッキ等で確実に固定します。また、凍結液注入前に水で凍結用容器に漏れが無いか確認します。
- ② 凍結液の取扱いは、十分注意し、管を凍結する際の注入は、容器からあふれないように慎重に行います。また、現場条件によっては多量の白煙が生じるため、ブロワを使用するなど視界確保のための方策をとります。
- ③ フランジT字管のフランジ側を凍結する場合は、既存のボルト・ナットが焼き付けを起こし操作できなくなる恐れがあるため、凍結作業をする前に既存のボルト・ナットをはずして継手部分を清掃した後、焼き付け防止措置がついたステンレス製のボルト・ナットに交換します。
- ④ 凍結時間は、φ75mm 25分、φ100mm 30分、φ150mm 45分を一定の目安とし、天候や気温などで変化するため監督員と協議のうえ決定します。
- ⑤ サドル付分水栓等で凍結したことを確認してから、管の切断、接続を行い、連絡後は容器を取り外し、トーチランプ等で凍結箇所を加熱溶解します。

(5)-10 エアバッグ式止水工

- ① エアバッグを管内に挿入する前に、挿入機とエアバッグを組み立て、空気圧(0.1MPa)を加えて3分以上保持し、空気の漏れがないことを確認のうえ使用します。
- ② エアバッグの空気圧は原則として、管内水圧に0.20MPaをプラスした値で実施しますが、加圧に際しては監督員の指示に従います。
- ③ 管内水圧測定用の圧力計がゼロ付近を示したり、下端にあった挿入機のスライドバーが上昇した場合は、バッグが水流方向と逆に入っている可能性が大きいので、監督員と協議のうえ調整し直します。
- ④ 施工中は、止水状況に異常がないことを管内水圧、エアバッグの空気圧等により、常時監視します。なお、異常がある場合、監督員に報告し、その指示に従います。
- ⑤ サドル付分水栓等で止水の確認をしてから管の切断、接続を行い、エアバッグを撤去する場合は、ウォーターハンマーが発生しないようにゆっくり空気を開放します。
- ⑥ 止水確認用のサドル付分水栓は呼び径φ75・100の分岐径はφ20、呼び径φ150の分岐径はφ25を目安とします。
- ⑦ 管切断位置は、ストッパーサドルの中心から呼び径φ75・100は60cm、呼び径φ150は80cmを離すようにします。

(注) 使用しない項目については、斜線を引くこと。

(6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工

- ① 埋戻材は、監督員の承諾を受けたものを使用します。
- ② 管天端までの埋戻しは、管に損傷を与えないように注意し、人力等により締固めを行い、管下端へ砂がまわり込むようにするとともに、管側部が締固め不足とならないように入念に行います。それ以降の埋戻しは、1層の仕上り厚20cmを超えない範囲でタンパ等により十分に締め固めます。
- ③ 埋戻材の投入は、人力及びバックホウで行い、管に衝撃を与えないようにします。
- ④ 地下埋設物の交差箇所や水路横断箇所の埋戻し、突固めは、水締めを併用するなど特に入念に行い、沈下が生じないようにします。
- ⑤ 土留用切梁、管の据付けの胴締め材は、管に影響を与えないように、取り外し時期、方法を考慮して埋戻しを行います。
- ⑥ 埋戻しに使用する材料は、ごみ、泥、有機物等の不純物が混入しない良質のものを使用します。
- ⑦ 路盤各層の施工に先立ち、浮石、木片、ごみ等を取り除きます。
- ⑧ 路盤の一層の仕上がり厚は、上層路盤では15cm以下、下層路盤では20cm以下になるように均一に敷き均します。
- ⑨ 路盤材の敷均しは、均等に過不足ないように散布し、締固めにより不陸を生じた

場合は、適当な大きさの路盤材で入れ替えるか、又は、同じ大きさの路盤材を補足して補正し、決して小さい路盤材を散布して不陸の整正を行いません。

- ⑩ 路盤の締固めは、路床、路盤材料の種類などに応じて最適含水比付近の含水比で行い、十分転圧を行います。なお、路盤面は規定の高さに平坦に仕上げます。
- ⑪ 締固め作業は、縦断方向に行い、路側より開始して、逐次中央に向かって締固めを行います。
- ⑫ 締固め機械は、その通過軌跡を十分に重ね合わせるものとします。
- ⑬ 構造物の取付け部や路側の締固めは、小型の締固め機械等により特に入念に締め固めます。
- ⑭ 施工継目及び在来舗装部分との接合は、在来舗装部分に害を与えないよう掻き起こし、新規材料を補足します。
- ⑮ 所定の埋戻し完了後直ちに舗装用合材で仮復旧を行います。また、仮復旧後であっても、路線の巡回を行い、路面及び舗装の破損、沈下等を発見した場合は、速やかに再復旧します。

(7) 舗装工

- ① 混合物の運搬は、舗設作業の進捗に応じ、過不足のないように間断なく現場に搬入します。また、運搬時の温度低下を防ぐためにシート類で覆うなどの保温設備を施したダンプトラックを使用します。
- ② 混合物の運搬車は、清浄で平滑な荷台を有するダンプトラックを使用します。ダンプトラックの荷台内面には、混合物の付着を防止する油又は溶液を薄く塗布します。
- ③ 混合物を運搬車から積み下ろす際は、材料分離を起こさないように注意します。
- ④ アスファルト基層、表層工の施工に先立って、上層路盤面又は基層面の浮石、その他有害物を除去します。
- ⑤ プライムコート
 - a プライムコートは、原則として外気温が5℃以下のときは散布しません。作業中に雨が降り出した場合は、直ちに作業を中止します。
 - b プライムコートは、路盤（瀝青安定処理を除く。）を仕上げた後、速やかに散布します。
 - c プライムコートを散布する面が乾燥していることを確認するとともに、浮石、ごみ、その他有害物を除去します。
 - d プライムコートの散布に当たっては、縁石等の構造物を汚さないよう所定の量を均一に散布し、過剰散布とならないようにします。
 - e プライムコートを散布後、交通を開放する場合は、瀝青材料の車両等への付着を防ぐため、粗目砂などを散布すること。交通によりプライムコートが、剥離した場合は、再度プライムコートを散布し、補修します。
- ⑥ タックコート

- a タックコートは、原則として外気温が5℃以下のときは散布しません。作業中に雨が降り出した場合は、直ちに作業を中止します。
- b タックコートを散布する面が乾燥していることを確認するとともに、浮石、ごみ、その他有害物を除去します。
- c タックコートの散布に当たっては、縁石等の構造物を汚さないよう所定の量を均一に散布し、過剰散布とならないようにします。
- d タックコートは、上層のアスファルト混合物を舗設するまでの間、良好な状態を維持します。
- e 縦継目、横継目及び構造物との接合面にタックコートを薄く塗布します。

⑦ 混合物の敷均し

- a 混合物の敷均しに当たっては、その下層表面が湿っていないときに施工します。作業中雨が降り出した場合は、直ちに作業を中止し、また、外気温が原則として5℃以下のときは施工しません。
- b 一層の仕上がり厚は、7 cm 以下にします。
- c 寒冷期にやむを得ず5℃以下の外気温で舗設する場合は、状況に応じ次の方法を組み合わせるなどして、舗設を行います。

- ・舗設現場の状況に応じて、混合物製造時の温度を普通の場合より若干高めとする。ただし、アスファルトの劣化をさけるため、混合物の温度は必要以上に上げないように留意します。

- ・混合物の運搬に当たっては、運搬車の荷台に帆布を2～3枚重ねて用いたり、特殊保温シートを用いたり、木枠を取り付けるなど、運搬中の保温方法の改善を行います。

- ・瀝青材料を散布する場合には、散布しやすくするために瀝青材料の性質に応じて加温しておきます。

- ・敷きならしに際しては連続作業に心掛け、アスファルトフィニッシャのスクリードを継続して加熱します。

⑧ 締固めに際しては、転圧作業のできる最小範囲まで混合物の敷均しが進んだら、ただちに締固め作業を開始します。

⑨ コールドジョイント部は、温度が低下しやすく締固め不足になりやすいため、ガスバーナ等を使用して既設舗装部分を加熱しておきます。

⑩ 混合物の締固め

- a 締固めには、掘削幅に適合し、かつ、重量の大きな転圧ローラを使用します。なお、縁部等ローラによる転圧が困難な箇所は、タンパ等で十分締め固めて仕上げます。

- b 横継目、縦継目及び構造物との接触部は、十分締め固め密着させます。

- c 継目は十分に締め固め密着させ、平坦に仕上げます。既に舗設した端部が十分締め固められていない場合や、亀裂が多い場合は、その部分を切り取ってから隣接部を施工します。

- d 既設舗装面との継目部は、レーキなどで粗骨材を取り除いた新しい混合物を、

5 cm程度薄く重ねて敷き均し、直ちに転圧します。

- ⑪ 転圧完了後の交通開放温度は原則として、舗装表面温度が 50℃以下になってから行います。

(8) 写真管理

本工事の写真管理は、下記のとおり行います。

① 撮影箇所と内容

撮影箇所と内容は、次表に示すとおりとします。

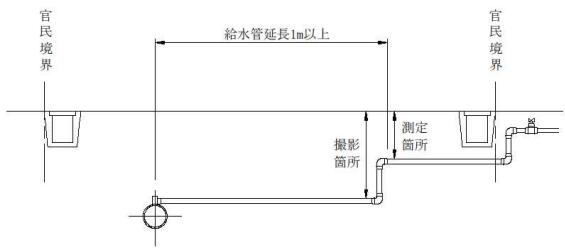
表

工 種	名 称	撮影箇所及び内容	頻 度
着工前 完 成		比較となるよう、同一視点から着工前と完成の全景を入れ起点側から全路線を撮影し、終点側からも一枚撮影する。 【着工前】 試掘調査前にNo.点にポールを立てずに撮影する。 【完成】 No.点にポールを立て埋設位置を示し撮影する。	No.毎
材料検査	配管材料	名称、規格、数量等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。(監督員立会)	各材料
	路盤用砂	名称、規格等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。(監督員立会)	
	砕石		
	配管材料保管状況	配管材料の保管状況をどの材料が保管されているかわかるように一部材料を見せて撮影する。	
掘削工	舗装版切断状況	舗装版切断状況を撮影する。安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	管理No.毎
	舗装版破碎状況	舗装版破碎状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	舗装版積込状況	舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	バックホウ掘削状況	バックホウ掘削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	掘削残土積込状況	掘削残土積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	人力床堀状況	人力床堀状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	監督員の指示による
木製、軽量鋼矢板 土留工設置状況	土留工の設置状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。		

掘削工	出来形管理	掘削幅及び掘削深さの出来形を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	管理No.毎
布設工 (切替含む)	挿絵（管割図）	切管寸法、異形管規格、管 No. を入れた管割図とする。	管理No.毎 及び異形管部
	配管状況	異形管は、個々の配管部材が明確にわかるように、進行方向及び横方向から撮影し、必要に応じて、逆方向から撮影する。黒板に配管立体図及び管 No. 等（PP 施工時には前に施工した日付）を記入し、記載内容がわかるように撮影する。	
		栓止め等の管末処理状況がわかるように黒板に配管立体図を記入し、ポリエチレンスリーブ被覆前に撮影する。	
		PP 管の場合は、黒板に切管寸法を記入し、布設箇所全てで配管状況を撮影する。	全路線
		既設地下埋設物と近接する場合、構造物の形状がわかるように黒板に略図を記入し、土被り、クリアランスを撮影する。また、排水管を設置する際に側溝等既設構造物を一部取り壊した時には不可視部分の復旧状況を撮影する。	1 箇所毎
		既設管との接合の際は挿口又は受口の清掃、補修等の状況を撮影すること。	
	管明示テープ貼付状況	管明示テープ貼付状況を撮影する。	管理No.毎 及び異形管部
	ポリエチレンスリーブ被覆状況	ポリエチレンスリーブが全体に被覆されたことがわかるように撮影する。また、PP 管の場合はロケーティングワイヤーの管頂部への設置状況も撮影する。	
	鋳鉄管吊込み据付工 PP、VP、鋼管据付工	吊込み据付状況等を撮影する。鋼管ねじ切りをして露出した部分に防食テープを巻き付けた場合は、巻き付け後に撮影する。	管理No.毎 及びライナ設置箇所
GX、NS 継手工接合状況	挿入量を明示した線に正確に合わせて接合しているか確認できる写真を横方向から撮影する。 継輪を設置する場合は、両挿し口端の間隔を撮影する。	（継輪は 1 箇所毎）	
継手工締付状況	メカニカル・特殊押輪等のトルク管理を撮影する。メタルタッチの場合、すきまゲージでの管理状況を撮影する。	口径毎 1 箇所 （フランジはガスケット形式毎）	

布設工 (切替含む)	継手工締付状況	PP 継手工のトルク管理を撮影する。	管理No.毎 切替箇所毎
		V-KING 等は PP 補強用コア挿入状況を設置箇所がわかるように全箇所撮影する。	1 箇所毎
	鋳鉄管切断・溝切加工状況	鋳鉄管切断・溝切加工状況を撮影する。	口径毎 1 箇所
	切管補修状況	切管補修状況を撮影する。	
	GX、NS 継手挿口加工状況	切管の挿口加工状況を撮影する。	
	切管寸法測定	ダクタイト鋳鉄管の切管を作成した際には、黒板に略図及び管 No.、寸法を記入し、受口を左側にした切管寸法測定を撮影する。	1 箇所毎
	ライナ挿入状況	黒板に配管立体図及び管 No. を記入し、管 No. がわかるように撮影する。	1 箇所毎
	仕切弁設置工	設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管 No. を記入し、水平に設置していることを確認できるように水平器等を設置して完了を撮影する。(黒板には本管口径を記入する。) 割 T 字管、ヤノストッパー等で弁管を設置しない仕切弁については、仕切弁の全開確認の写真を撮影する。	1 基毎
	ヤノストッパー設置工	設置状況、水圧検査(監督員立会)、完了を撮影する。 また、採取した穿孔片を撮影する。 ヤノストッパー II 型を設置する場合、本管の栓止め終了後、本体側の弁体を全閉から全開方向に戻した確認の写真を撮影する。	
	不断水連絡工	設置状況、水圧検査(監督員立会)、完了を撮影する。 また、採取した穿孔片を撮影する。 シーバー弁付不断水分岐用割 T 字管及び仕切弁管を設置しない不断水分岐用割 T 字管を使用する場合、シーバー弁及び仕切弁の全開確認の写真を撮影する。 鋳鉄管に SUS ブッシュを取付けする場合は、SUS ブッシュ挿入機に装着している SUS ブッシュの挿入前及び挿入後の写真を撮影する。	
消火栓設置工	設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管 No. を記入し、ポリエチレンスリーブ被覆前に設置完了を撮影する。また、設置完了後に消火栓の通水確認を撮影する。(監督員立会) 基礎砕石工の出来形管理写真を撮影する。		
仕切弁管設置工	座台、仕切弁管を水平に設置していることが確認できるように水平器等を設置して各設置完了を撮影する。(黒板には本管口径を記入すること。) また、仕切弁管を切断した場合、補修状況を撮影する。	1 基毎 (補修状況については 1 箇所以上)	

布設工 (切替含む)	バタフライ弁設置工	設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管 No. を記入し、完了を撮影する。	1 基毎
	インサートバルブ設置工	設置状況、水圧検査（監督員立会）、完了を撮影する。また、採取した穿孔片を撮影する。	
	空気弁設置工	設置完了を撮影する。	
	弁柵設置工	作業状況、設置完了を撮影する。	
	エアバック式止水工	作業状況、ストッパーサドル処理完了を撮影する。	1 箇所毎
	管凍結工	作業状況及び解氷状況を撮影する。	
	撤去工	廃止管や仕切弁筐等の撤去状況を撮影する。	
	水替工	配管作業時に沈砂柵による排水処理状況を撮影する。	1 箇所以上
	土被り測定	土被りの出来形管理を管理地点もわかるように背景をいれて撮影する。	管理No.毎 及び 50m 毎 既設管接合部
	オフセット測定	オフセット測定を管理地点がわかるように背景をいれて撮影する。	管理No.毎 及び 50m 毎
管洗浄工	挿絵（略図）	管洗浄範囲が確認できる平面略図とする。	監督員の指示による
	管洗浄工	黒板に管洗浄範囲（管種、口径、延長）を記載し、ポリピック挿入、ポリピック吐出（監督員立会）を撮影する。	
水圧検査 (検査員立会)	水圧検査	水圧検査範囲、管種、口径、延長、検査水圧、開始時間、終了時間を黒板に明記し、水圧計設置位置がわかるように背景もいれて撮影する。	監督員の指示による
水質検査	残留塩素濃度確認 色、濁りの確認	布設管を既設管及び給水管に連絡する前に、残留塩素濃度を測定及び色、濁りが異常でないことを確認し撮影する。（監督員立会）	監督員の指示による
給水管連絡工 (給水管取替工)	給水管連絡状況 (給水管取替状況)	分水栓用防食フィルム設置前に給水管の配管状況がわかるように、黒板に配管立体図、位置等を記入し、撮影する。	1 箇所毎
	サドル穿孔状況	サドル穿孔状況を撮影する。また、採取した穿孔片を撮影する。	給水口径毎 1 箇所
	密着コア挿入状況	密着コア挿入状況を撮影する。	
	継手工締付状況	PP 継手工のトルク管理を撮影する。	1 箇所毎
	防食フィルム被覆状況	分水栓用防食フィルム被覆完了を撮影する。 ※土被り測定と同写真でも可とする。	
	土被り測定	給水管を 1.0m 以上布設する場合は、既設給水管との接続箇所の直近まで道路上の基準の土被りを確保していることが確認できる位置で給水管の土被りを撮影する。それ以外は既設給水管との接合箇所の土被りを撮	

給水管連絡工 (給水管取替工)	土被り測定	<p>影する。</p> <p>※給水管を道路上で 1.0m 以上布設する場合の、既設給水管との接合箇所については、測定のみとし完成図面に土被りの測定値を記入する。</p> 	1箇所毎
	民地復旧状況	給水管取替工等において民地を掘削した場合、復旧前、復旧後を撮影する。融雪設備を有する場所は特に注意すること。	
埋戻工	砂埋戻締固め	<p>管周りの締固め状況を撮影する。</p> <p>各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を位置がわかるように背景もいれて撮影する。</p>	管理No.毎
	出来形管理	砂埋戻し厚の測定状況を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	埋設標識シート布設完了	埋設標識シート布設完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
路盤工	下層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	管理No.毎
	下層路盤工 出来形管理	下層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	上層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	管理No.毎
	上層路盤工 出来形管理	<p>上層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。</p> <p>影響幅まで上層路盤を施工する場合、上層路盤幅を撮影する。</p>	
	仮復旧工	As 敷均し状況、転圧状況、転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	

路盤検査 (検査員立会)	路盤検査	監督員の指示により、路盤の幅、厚さの測定状況を撮影する。	監督員の指示による
舗装工	影響幅切断状況	影響幅切断状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	管理No.毎
	舗装版破碎状況	舗装版破碎状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	舗装版積込状況	舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	不陸整正、転圧状況	不陸整正、転圧状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	不陸整正、転圧完了	不陸整正・転圧完了を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	舗装幅測定	舗装幅測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	既設舗装版洗浄状況	既設舗装版洗浄状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	サイドタックコート塗布完了	サイドタックコート塗布完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。(既設舗装及び構造物) ※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。	
	As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	As 転圧状況	As 合材の転圧状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
As 転圧完了	As 合材の転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。		
	区画線工	区画線工の作業状況を撮影する。	管理No.毎又は1箇所毎
舗装工 (品質管理)	散布量検収マット測定	散布量検収マット寸法測定及び散布前の検収マット重量を撮影する。	管理No.毎
	乳剤散布状況	乳剤散布状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。(検収マットは一行に3枚設置する。)	

舗装工 (品質管理)	散布量測定	各管理No.毎に3箇所の測定結果を現場で撮影する。(散布後の検収マット重量測定時に計算により求められた散布量(Q/m^2)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マットは、はかりの横に置き撮影する。) 散布量管理表を写真の手前につけて整理する。	管理No.毎
	現場到着温度測定	As 合材の現場到着温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する。 現場到着温度測定表を写真の手前につけて整理する。	全台数
	敷均し温度測定	As 合材の敷均し温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する 敷均し温度測定表を写真の手前につけて整理する。	管理No.毎
切削オーバーレイ工	路面切削機運搬状況	貨物自動車による路面切削機の運搬状況を撮影する。	適宜
	路面切削状況	路面切削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 すりつけがある場合、既設舗装とのすりつけ状況を撮影する。	監督員の指示による
	路面洗浄状況	路面切削後、路面洗浄機等で舗装版を洗浄した状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	舗装幅測定	必要に応じて舗装幅測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	サイドタックコート塗布完了	サイドタックコート塗布完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。(既設舗装及び構造物) ※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。	
	成形目地工	目地材の設置状況と設置完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	As 転圧状況	As 合材の転圧状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
	As 転圧完了	As 合材の転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。	
切削オーバーレイ工 (品質管理)	散布量検収マット測定	散布量検収マット寸法測定及び散布前の検収マット重量を撮影する。	
	乳剤散布状況	乳剤散布状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。(検収マットは一行に3枚設置する。)	

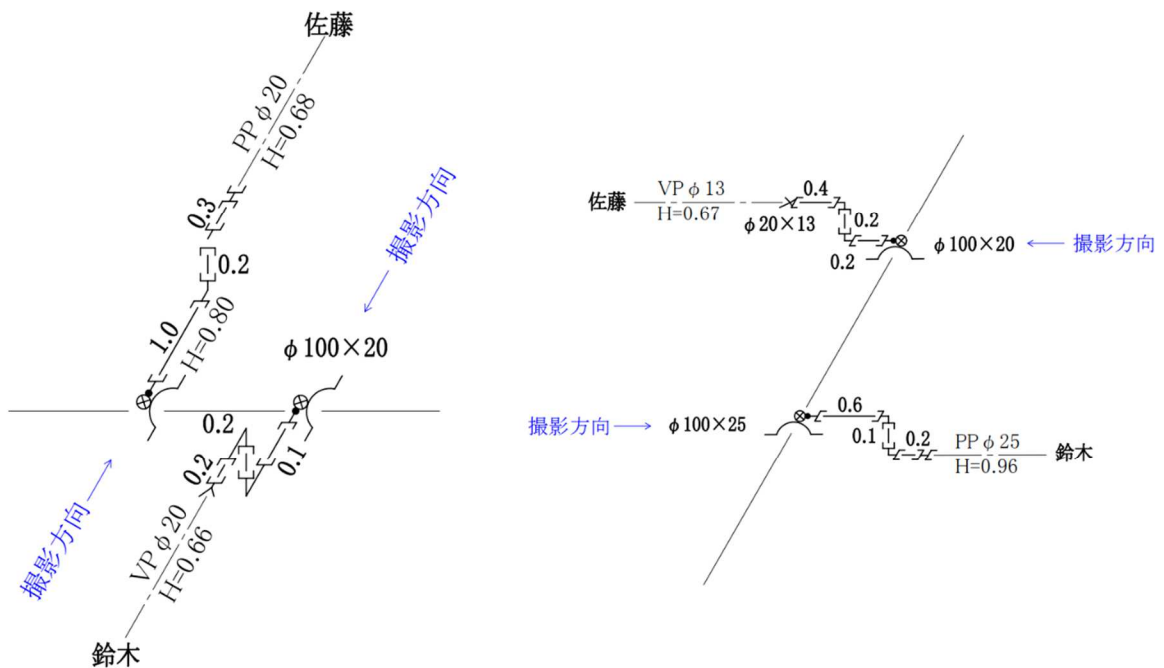
切削オーバーレイ工 (品質管理)	散布量測定	各管理No.毎に3箇所の測定結果を現場で撮影する。(散布後の検収マット重量測定時に計算により求められた散布量(Q/m^2)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マットは、はかりの横に置き撮影する。)	監督員の指示による
切削オーバーレイ工 (品質管理)	現場到着温度測定	As 合材の現場到着温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する。	監督員の指示による
	敷均し温度測定	As 合材の敷均し温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する	
舗装工 (完了後)	コア抜取状況	コア抜取状況を撮影する。	監督員の指示による
	コア厚測定	コア厚測定状況を撮影する。	
	コア穴乾燥状況	コア穴乾燥状況を撮影する。	
	コア穴乳剤塗布状況	コア穴乳剤塗布状況を撮影する。	
	コア穴締め固め状況	コア穴締め固め状況を撮影する。	
エアモルタル充填工	エアモルタル材料検査	名称、規格、数量等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。(監督員立会)	各材料
	エアモルタル充填配管状況	エアモルタル充填するための配管状況を撮影する。	1 箇所毎
	エアモルタル注入状況	エアモルタル注入状況を撮影する。	
	エアモルタル充填完了状況	エアモルタル充填完了状況を撮影する。(監督員立会)	
	エアモルタル充填配管撤去状況	エアモルタル充填するために使用した配管及びバルブ等について舗装下 30cm まで撤去した状況を標尺をつけて撮影する。	
エアモルタル充填工 (品質管理)	湿潤密度測定	各項目を測定し撮影する。(監督員立会)	
	空気量測定		
	フロー値測定		
	一軸圧縮強度測定		
その他	保安施設	工事看板、各種標識、安全施設等の設置状況及び交通誘導警備員の配置等の交通整理状況を撮影する。	適宜 1 回
	管理施設	建設業許可、体系図等の掲示状況を撮影する。また、現場事務所等の設置状況を撮影する。	適宜 1 回
	安全教育	安全教育、訓練等(災害防止協議会、新規入場者教育、KY 活動等)の実施状況を撮影する。	適宜
	残土運搬	残土処分地の所在を黒板に明記し、全景を撮影する。(監督員立会)	搬入前 搬入後
	資材置場	使用前、使用中の状況及び使用後の復旧完了を撮影する。	適宜

その他	排出ガス対策型建設機械使用状況	基準適合表示（ラベル）がついている排出ガス対策型建設機械の全景を撮影する。さらに、基準適合表示（ラベル）の近景も撮影する。	表 1.4.1 に適する建設機械
	その他	監督員の指示する内容を撮影する。	監督員の指示による

② 撮影方向

工事写真は、起点から終点に向かって撮影し、全工種において方向を統一して撮影します。なお、異形管部を撮影する場合は黒板の略図はそのままで横方向からも撮影し、必要に応じて逆方向からも撮影します。

給水管連絡工及び給水管取替工は、下記の図を参考にして新設管から宅地に向かって撮影します。



5 出来形管理計画

- 1 工事数量表
- 2 掘削土工・土被り管理図表
- 3 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表
- 4 路盤検査結果表
- 5 舗装工管理図表
- 6 切取供試体厚さ測定管理図表

(様式-7 の 2)

1 工事数量表 (例)

主任技術者 _____
現場代理人 _____
測定者 _____

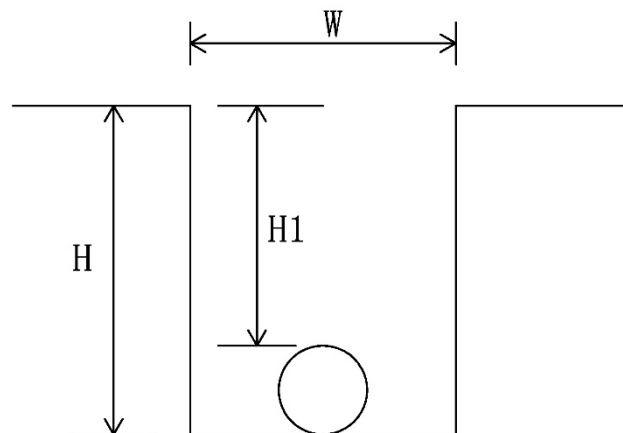
工 種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘 要
布 設	配水管	DGXE φ 150	m	240.0			
	〃	DKE φ 150	〃	5.0			
	〃	DGXE φ 100	〃	7.0			
	〃	PP φ 50	〃	7.0			
設 置	仕切弁	GX 形ソケット両受 φ 150 10k	基	1			
	〃	SS 弁 φ 150 7.5k	〃	3			
	〃	SS 弁 φ 100 7.5k	〃	1			
	〃	SS 弁 φ 75 7.5k	〃	2			消火栓用 1 基 排水用 1 基
	〃	SS 弁 (V・S ソケット) φ 50 7.5k	〃	1			

設計値—黒書
実測値—朱書

※布設延長の実測値は小数点以下第 2 位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。

(様式-7 の 5)

2 掘削土工・土被り管理図表 (例)



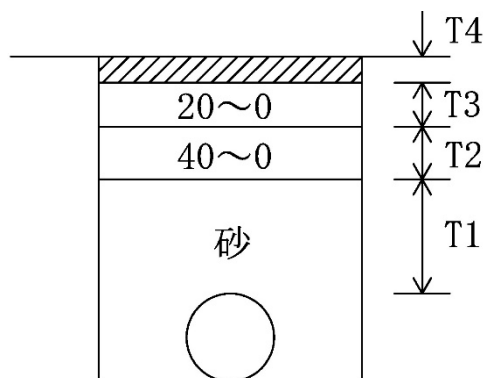
(単位 mm)

測定項目	W			H			H1		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値	-30			-30			±50		
社内目標値	-25			-25			±45		
No. 0+50	—	—	—	—	—	—	800		
No. 1	550			970			800		
No. 1+50	—	—	—	—	—	—	800		
No. 2	550			970			800		

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 6-1)

3 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表 (例)



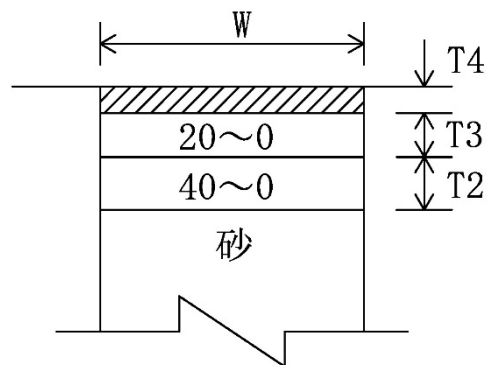
(単位 mm)

測定項目	T1			T2			T3			T4		
許容値				-20			-20					
社内目標値				-10			-10					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 1	350			350			170			30		
No. 2	350			350			170			30		

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 7-1)

4 路盤検査結果表 (例)



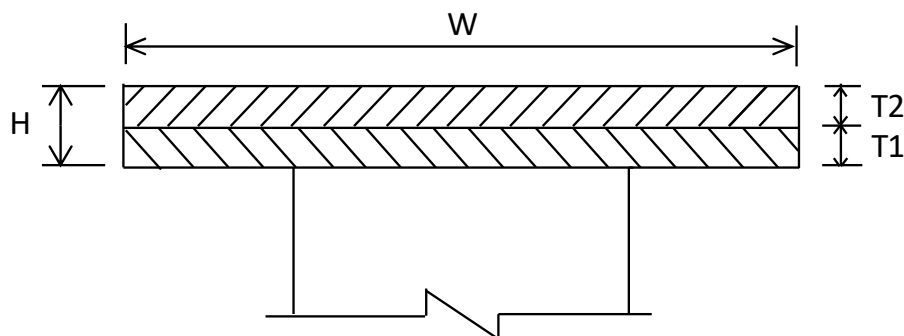
(単位 mm)

測定項目	W			T2			T3			T4		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値	-30			-20			-20					
社内目標値	-25			-10			-10					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
監督員の指示箇所	550			200			190			30		

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7の8)

5 舗装工管理図表 (例)

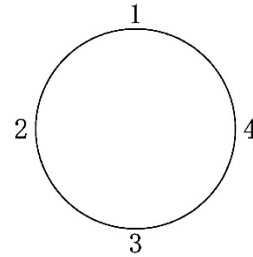


(単位 mm)

測定項目	W			H			T1			T2		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値												
社内目標値												
No. 1	1,500			70			40			30		
No. 2	1,500			70			40			30		

設計値—黒書
実測値—朱書

6 切取供試体厚さ測定管理図表



再生密粒度 As (13F) 30mm
 再生密粒度 As (13) 40mm

施工年月日 (元号) 年 月 日 ~ 月 日
 切取年月日 (元号) 年 月 日
 測定年月日 (元号) 年 月 日



(単位 mm)

測定項目	T1 (再生密粒度 As 13F)						T2 (再生密粒度 As 13)						T (表層+基層)													
許容値	-5						-5						-は認めない													
社内目標値	-4						-4						-は認めない													
測点又は 区別	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差					
		1	2	3	4	平均			1	2	3	4	平均			1	2	3	4	平均						
監督員の 指示箇所	30							40							70											

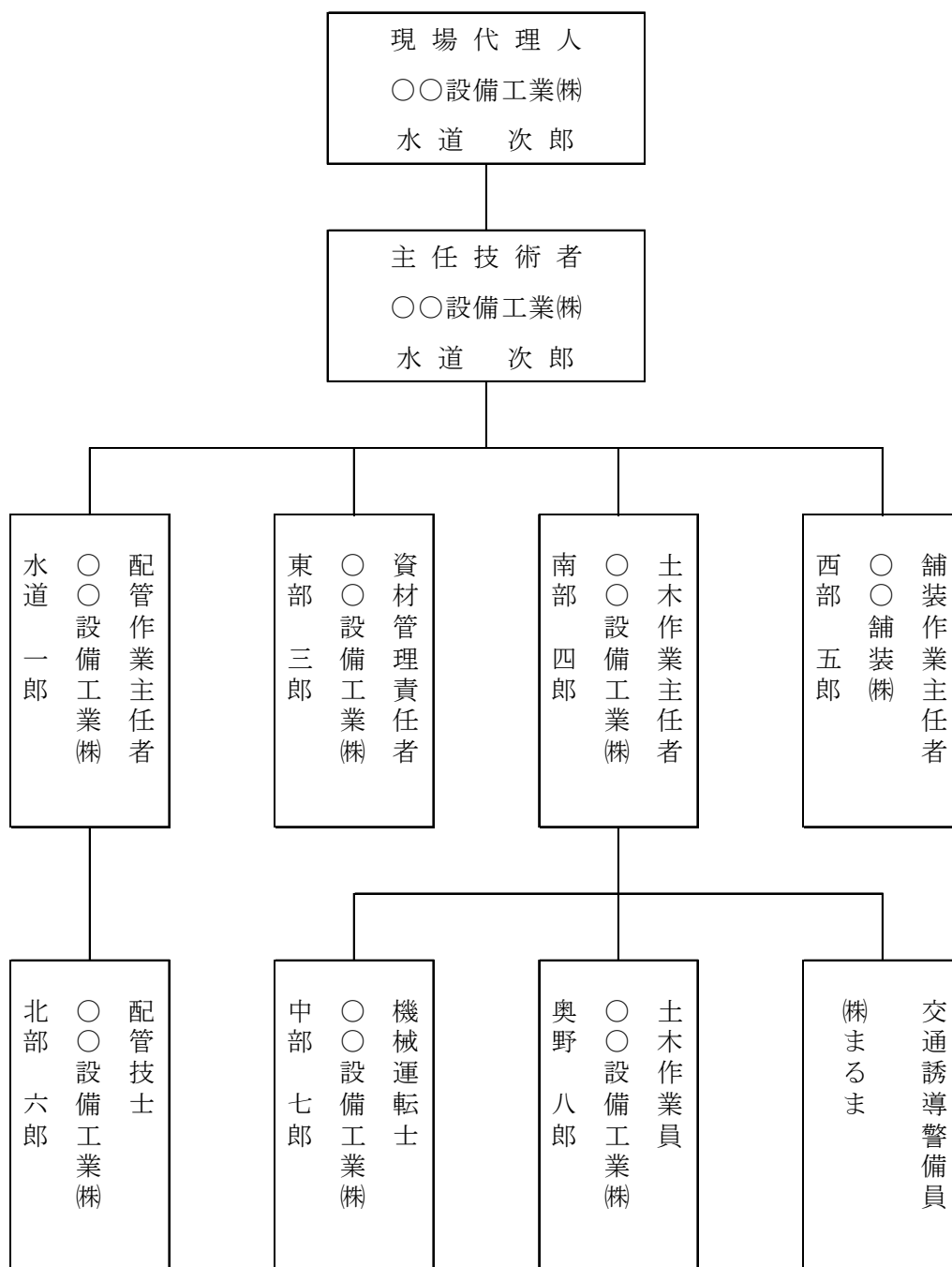
設計値—黒書
 実測値—朱書

※実測値の平均は小数点以下を切り捨てること。

6 品質管理計画

- ① 材料は、監督員の検査を受け、合格したものを使用します。
- ② 屋外に保管する管材はブルーシートで覆い、铸铁管は 2m 以下になるように積み重ねます。
- ③ ポリエチレンスリーブ類は、直射日光の当たらない場所に保管します。
- ④ 誤ってポリエチレンスリーブに傷をつけた場合は、傷口よりも大きい当てスリーブを被せ、四方を粘着テープで固定し補修します。
- ⑤ ポリスリーブは管に密着させて被覆し、折り重ね部が管頂にくるようにします。
- ⑥ GX 形ダクタイル管の接合又はフランジ接手接合は、チェックシートで確認しながら施工します。施工後、速やかに担当者にチェックシートを確認してもらい、万が一、チェック時に不適切な数値があったときは、やり直します。
- ⑦ K 形管のメカニカル継手、ポリエチレン管の袋ナットは必ず締付けトルクを確認します。
- ⑧ 水圧検査について、適切な水張り方法と空気抜き位置等を監督員と協議を行い、自主検査により完全に継手部からの漏水がないことを確認し、下検査及び本検査を受けます。また、空気抜きは必要に応じ、給水用サドル付分水栓を使用します。
- ⑨ 給水を開始する前に水質検査を行います。検査項目は、色及び濁り並びに消毒の残留効果とします。色及び濁りについては、白色の容器に水を入れて目視により異常がないことを確認します。消毒の残留効果については、デジタル残留塩素計、DPD テスター等により残留塩素濃度が 0.1mg/L 以上で、かつ上流の既設管と同程度になっていることを確認します。
- ⑩ 本復旧舗装前に、監督員から指示された箇所の路盤検査を行います。検査箇所は、幅・厚さ・締固め具合が判るように階段状に人力掘削します。なお、検査準備及び検査中は、車両・通行人に対し、交通誘導員・保安施設を適切に配置します。
- ⑪ プライムコートで使用する石油アスファルト乳剤は、JIS K 2208（石油アスファルト乳剤）の PK-3 の規格に適合するものとし、使用量 1.26 ℓ/m²を標準とします。
- ⑫ タックコートで使用する石油アスファルト乳剤は、JIS K 2208（石油アスファルト乳剤）の PK-4 の規格に適合するものとし、使用量は 0.43 ℓ/m²を標準とします。
- ⑬ アスファルト合材の敷均し温度は 110℃以上を標準とします。
- ⑭ 本復旧舗装は、提出した配合計画書に適合した合材で施工し、厚さ不足にならないように施工します。なお、舗装の出来形厚さは採取したコアで確認します。
- ⑮ 工事写真は、写真管理計画の内容で整理、編集します。また、監督員から提出を求められた場合は、速やかに提出できるように常に整理しておきます。

10 現場組織表



11 安全衛生管理

【安全衛生管理方針】

本工事は、車道を開削しての配管作業であり、作業区間沿線に一般住宅が密集し、車道幅員も狭いため、歩行者・自転車・一般車両との接触事故防止対策を重点的な目標として作業を行ないます。

建設業の労働災害の占める割合は非常に高く、建設機械使用時の【挟めれ、巻込まれ】による事故が多く発生しており、高年齢労働者の災害が目立つので、現場での新規入場時の安全衛生教育及び工事内容の周知徹底を行い、早期段階での災害発生防止のためにリスクアセスメントを実施し、作業終了まで安全サイクルを持続出来る環境づくりに努めます。

さらに、第三者に対する災害防止に特に注意し、車両の出入り、騒音、振動等を最小限に止めることとし、地域住民と強調しあい、信頼される関係で作業を進め、無災害で完工させるために下記の目標をもって進めます。

(1) 目標

- ① 死亡災害ゼロ
- ② 休業災害ゼロ
- ③ 第三者災害ゼロ
- ④ 清潔で働きやすい職場環境づくり

(2) 重点目標

- ① 施工計画に基づいた工事の推進
- ② 新規入場教育などの安全教育の実施
- ③ 安全施設の管理と維持
- ④ 記録の作成と保持の徹底
- ⑤ 打合せによる指示、確認報告の徹底

(3) 重大災害防止策

【重大災害防止策の徹底】

- ① 始業前点検の実施
- ② 有資格者の確認（新規入場時に点検する）
- ③ 交通誘導警備員（見張人）の配置確認
- ④ 始業前打合せによる危険事項の共有、作業指示の確認、報告、相談の徹底

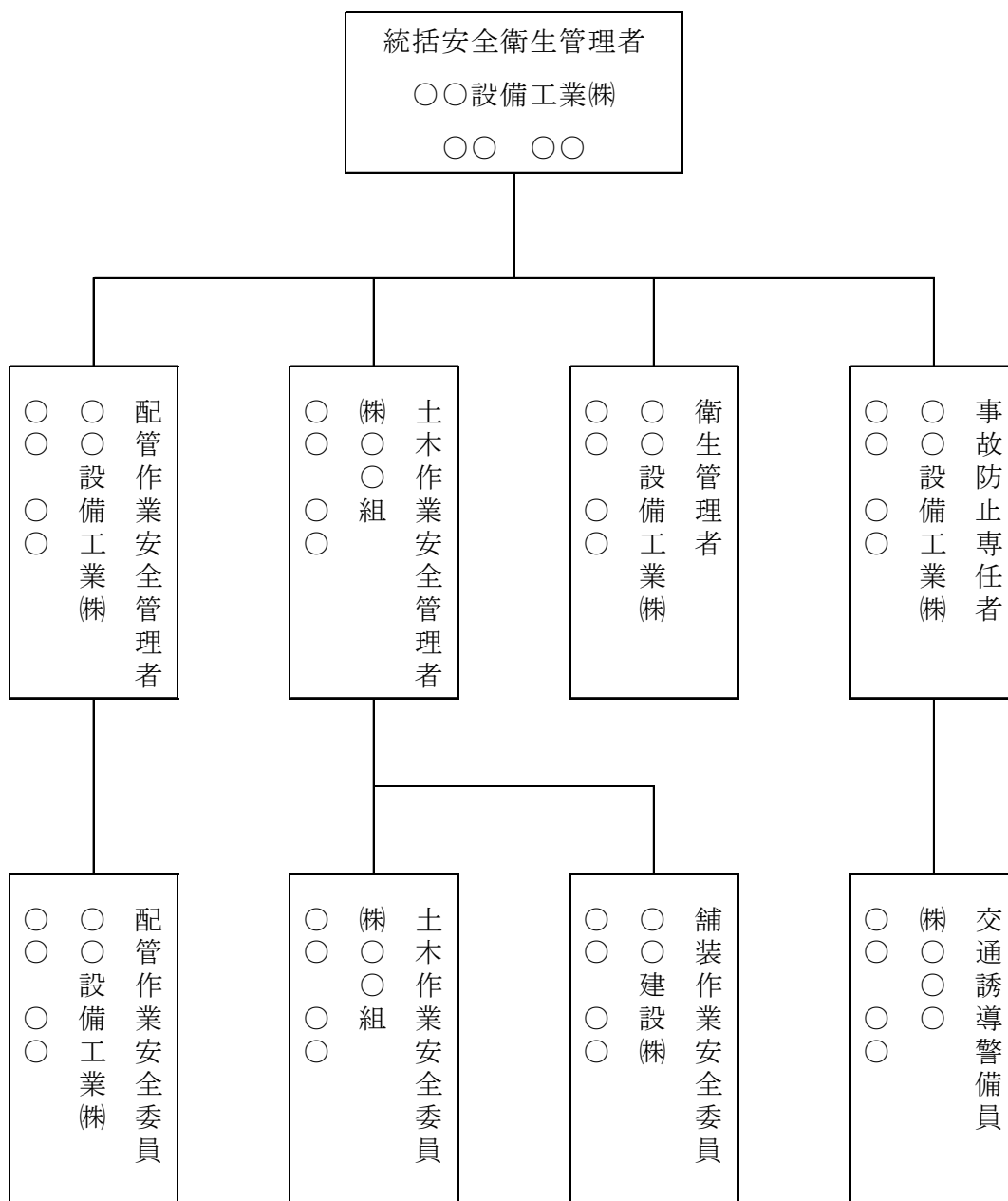
【崩壊・崩落・倒壊防止対策】

- ① 計画に基づく作業内容の検討と実施
- ② 計画と実作業の相違チェック
- ③ 不安全作業及び行為のチェック
- ④ 作業中断中止の処置

【作業主任者の作業内容把握】

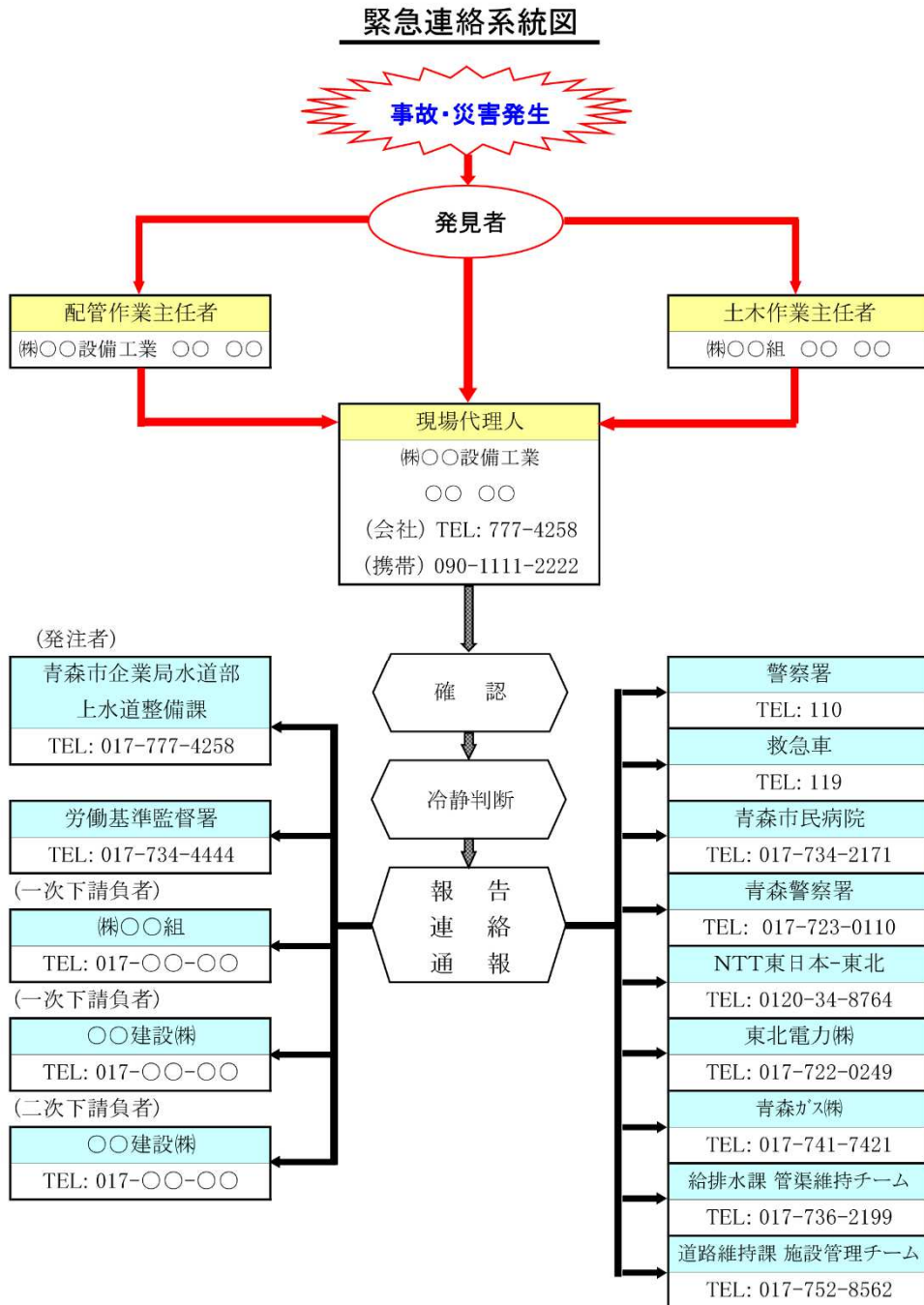
- ① 土留め矢板設置、撤去時の作業主任者による作業指示
- ② 正しい保安帽の着用
- ③ 定期点検の実施
- ④ 社内安全衛生パトロールの実施

12 安全衛生管理組織表



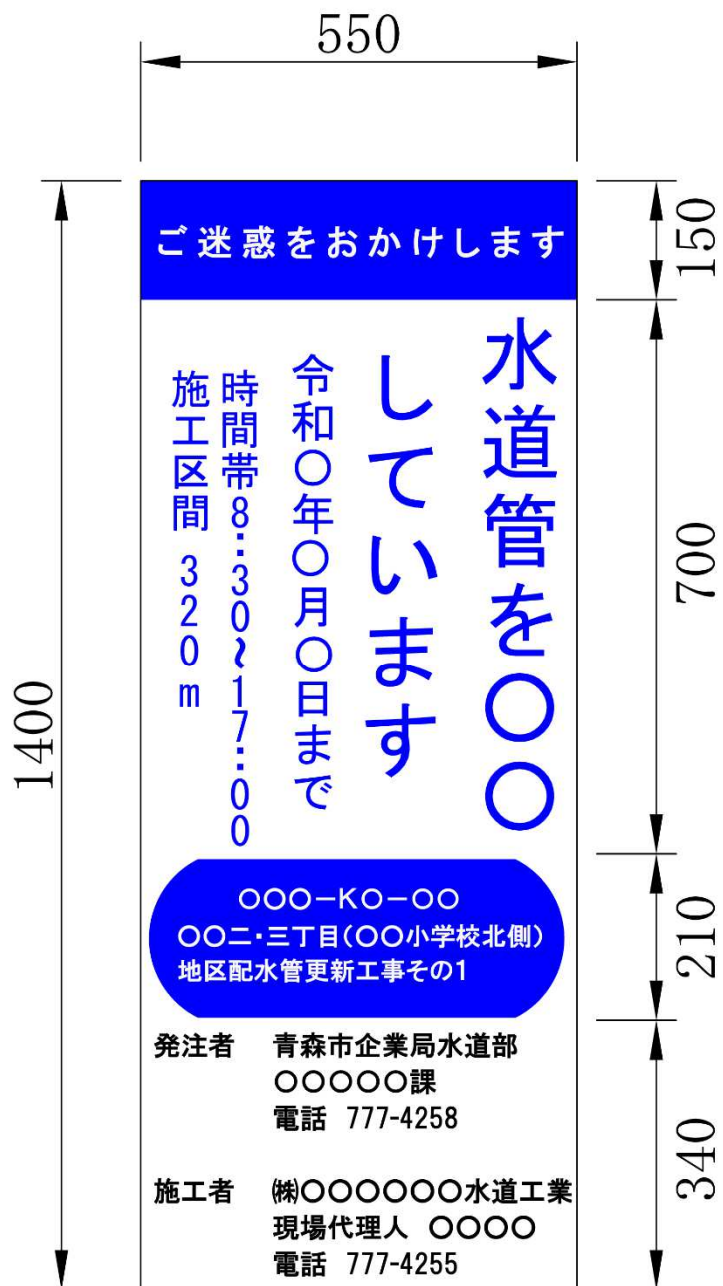
13 緊急時連絡表

- 1 現場において、事故又は災害が発生した場合は、下記の連絡体制で速やかに連絡する。
- 2 現場には職員・労務者・機械・資材を配置させ救助・復旧に努める。また、安全施設等を設置し関係者以外の立入りを禁止する。



14 安全施設（仮設備等）

工事看板

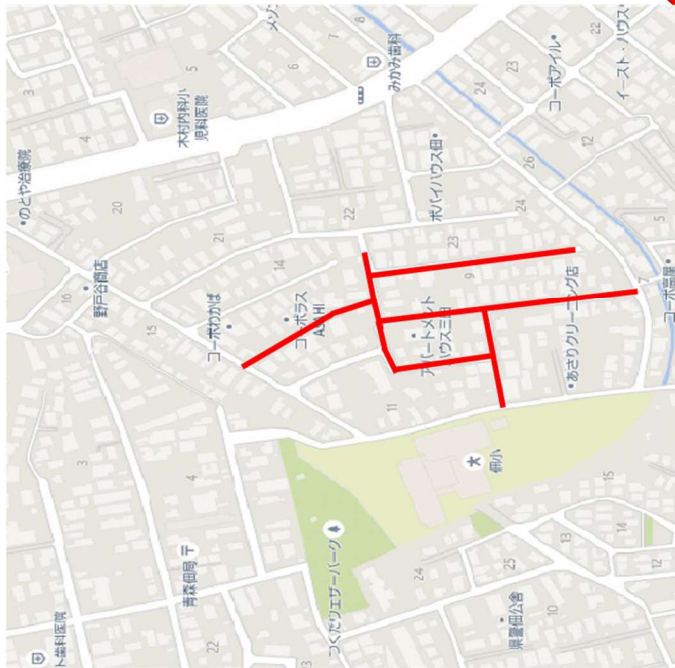


14 安全施設（仮設備等）

保安施設

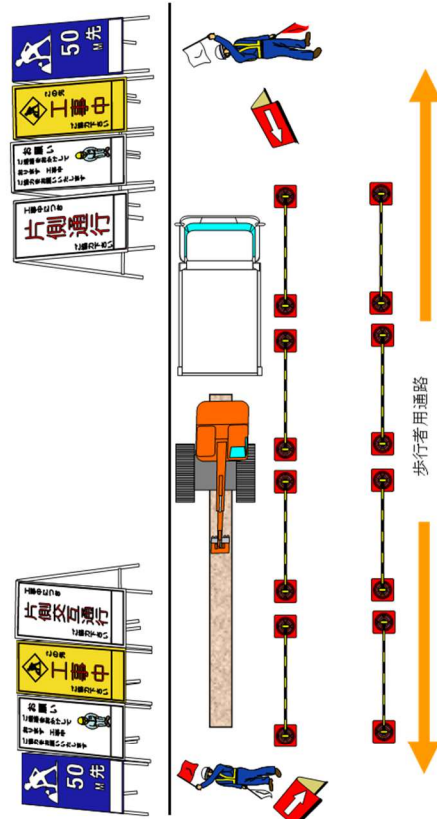
(片側交互通行の場合)

工事区間位置図



車道部掘削

1. 工事予告看板は工事場所の前後に設置する。
2. 工事最大延長 L=40m
3. 車道幅 約4.2m~5.2m
4. 掘削幅 約0.6m
5. 作業使用幅 約2.0m
6. 工事箇所前後に交通誘導員を配置し、歩行者誘導及び車両通行規制に伴い誘導します。



15 資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー

資格者及び技能講習修了者等名簿

資格 技能講習修了者等	氏名												
	会社名												
1級土木施工管理技士	(株)○○設備工業	○					○						
2級土木施工管理技士	(株)○○設備工業							○	○	○	○		
1級管工事施工管理技士	(株)○○設備工業	○			○								
2級管工事施工管理技士	(株)○○設備工業		○										
給水装置工事主任技術者	(株)○○設備工業	○		○	○								
配水管技能者登録証(一般継手)	(株)○○設備工業	○	○	○	○	○							
配水管技能者登録証(耐震継手)	(株)○○設備工業	○	○	○	○	○							
配水管技能者登録証(大口徑)	(株)○○設備工業	○											
地山掘削作業主任者	(株)○○設備工業								○				
土止め支保工作業主任者	(株)○○設備工業								○				
車輛系建設機械技能講習修了者	(株)○○設備工業		○				○		○	○	○		
移動式クレーン運転士	(株)○○設備工業		○		○		○	○	○				
玉掛業務従事者	(株)○○設備工業		○		○		○	○		○			
粉体塗装鑄鉄管分岐穿孔 及び密着マ挿入実施講習修了者	(株)○○設備工業				○								

資 格 者 証 写 し

(株)〇〇設備工業

〇〇 〇〇

※配管技士について、受注者が恒常的に雇用すること（3 ヶ月以上雇用する者）を確認できる書類を添付すること。（例 健康保険被保険者証等の写し）

16 再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画

計画書の写しを添付すること

- 昭和 41 年 配水管工事仕様書
- 昭和 58 年 10 月 配水管工事仕様書（改訂版）
- 平成 8 年 4 月 配管工事標準仕様書
- 平成 19 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書
- 平成 29 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）
- 平成 30 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）
- 平成 31 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）
- 令和 2 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）
- 令和 4 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）
- 令和 8 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書（改訂版）

上水道配管工事標準仕様書

令和 8 年 4 月発行

編集・発行 青森市企業局水道部